第３章　事業実施区域及びその周辺の概況

第３章　事業実施区域及びその周囲の概況

３－１　自然的状況

3-1-1　地形及び地質の状況

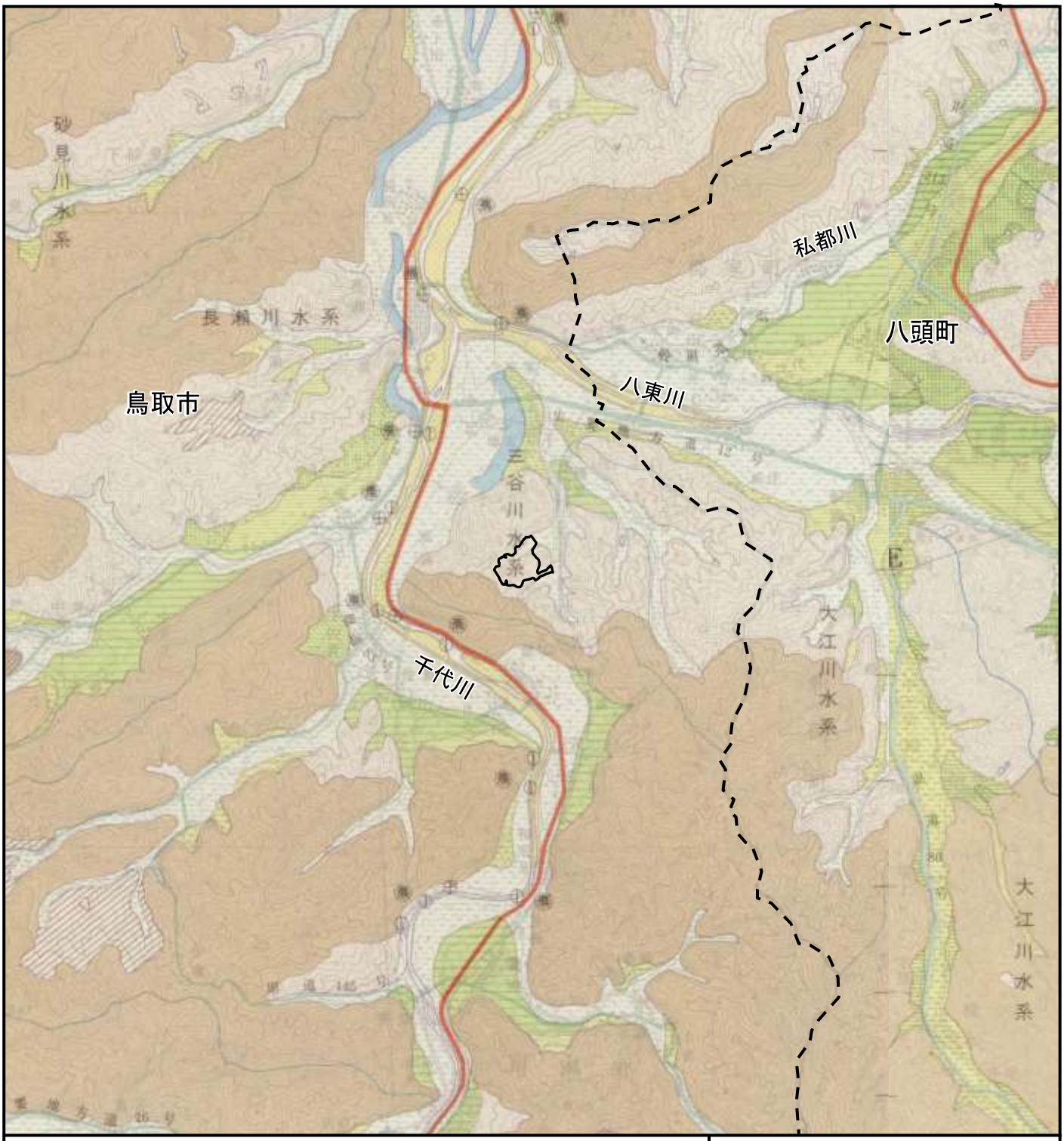
１．地形

土地分類調査による地形分類図は、図3－1.1に示すとおりであり、対象事業実施区域は、低起伏山地北側の山麓地となっている。

また、対象事業実施区域周辺の地形は、図3－1.2に示すとおりである。対象事業実施区域の標高は、同区域内尾根部分の最も高い地点で95mであり、概ね２～３kmの範囲に標高300～400mの山がある。また、これらの山と対象事業実施区域の間には、千代川及び八東川とその周囲に開かれた水田地帯が広がっている。

対象事業実施区域周辺の地形の詳細（概ね２km周囲)は、図3－1.3に示すとおりである。対象事業実施区域の南西側は、標高160m以上の山となっており、対象事業実施区域は、この山から続く尾根筋に位置している。尾根の標高は概ね100m以下であり、尾根を中心に北西側と南東側の水田部分が低くなる地形である。また、北西部と南東部の水田の標高は、概ね50mである。

対象事業実施区域の現況の空中写真は、図3－1.4に示すとおりである。



凡　例

対象事業実施区域　　市町界

山地
- 低起伏山地
- 山頂緩斜面
- 山麓地

低地
- 谷底平野
- 河原と浜

台地
- 砂礫台地 GtⅡ
- 砂礫台地 GtⅢ
- 砂礫台地 GtⅣ
- 砂礫台地 GtⅤ
- 古崖錐

その他
- 旧河道
- 二級水系河川流域界
- 国道
- 主要地方道
- 人口改変地

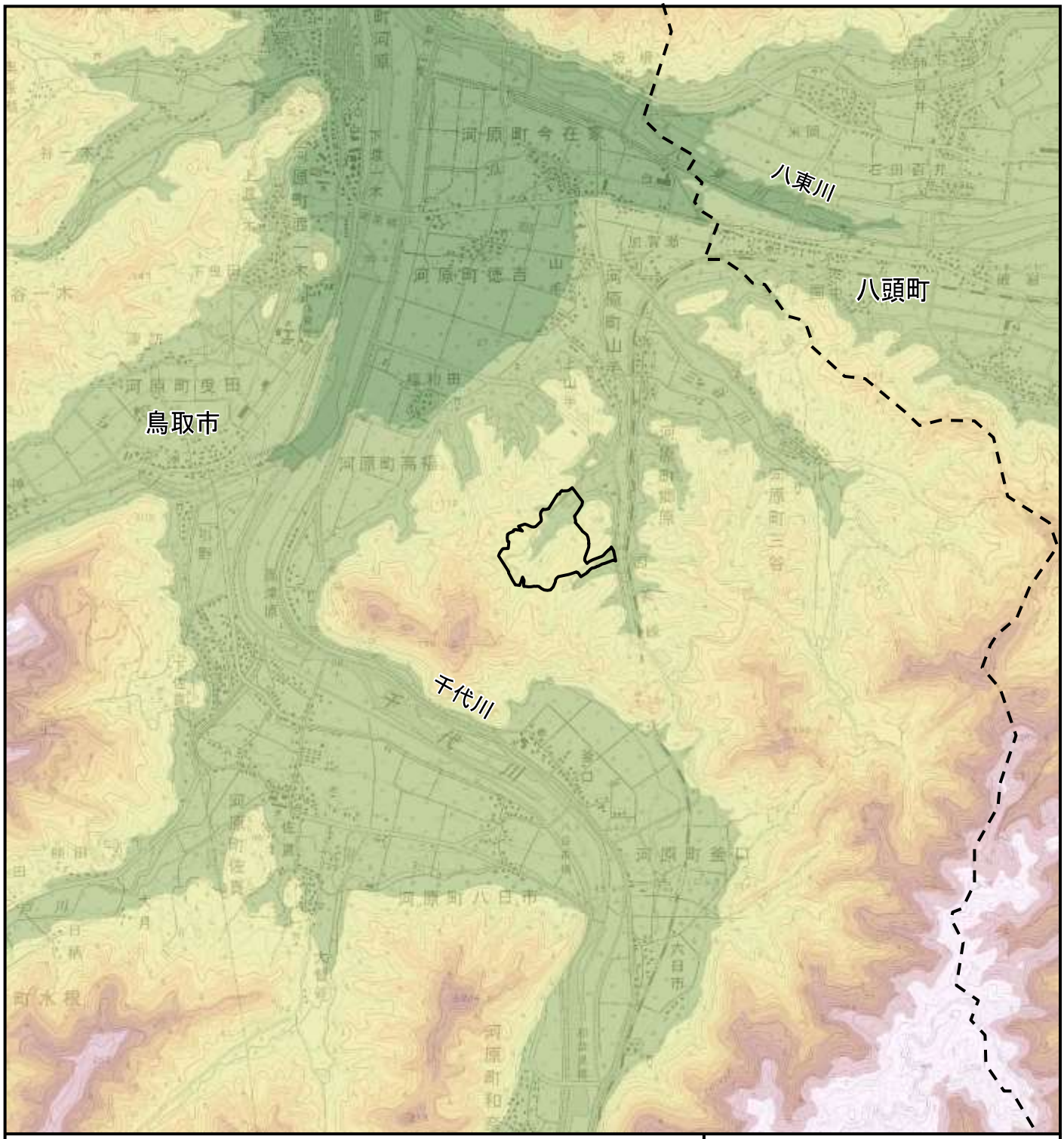
N

1：50，000

0　500m　1 km　2 km

出典）「土地分類基本調査　鳥取北部・鳥取南部、若桜・岡村」（昭和 51 年）
（千葉大学環境リモートセンシング研究センターホームページ）

図 3－1.1　地形分類図



凡　例

対象事業実施区域

市町界

標高（m）

0　-29	150-179
30　-59	180-209
60　-89	210-239
90　-119	240-269
120-149	270-

N

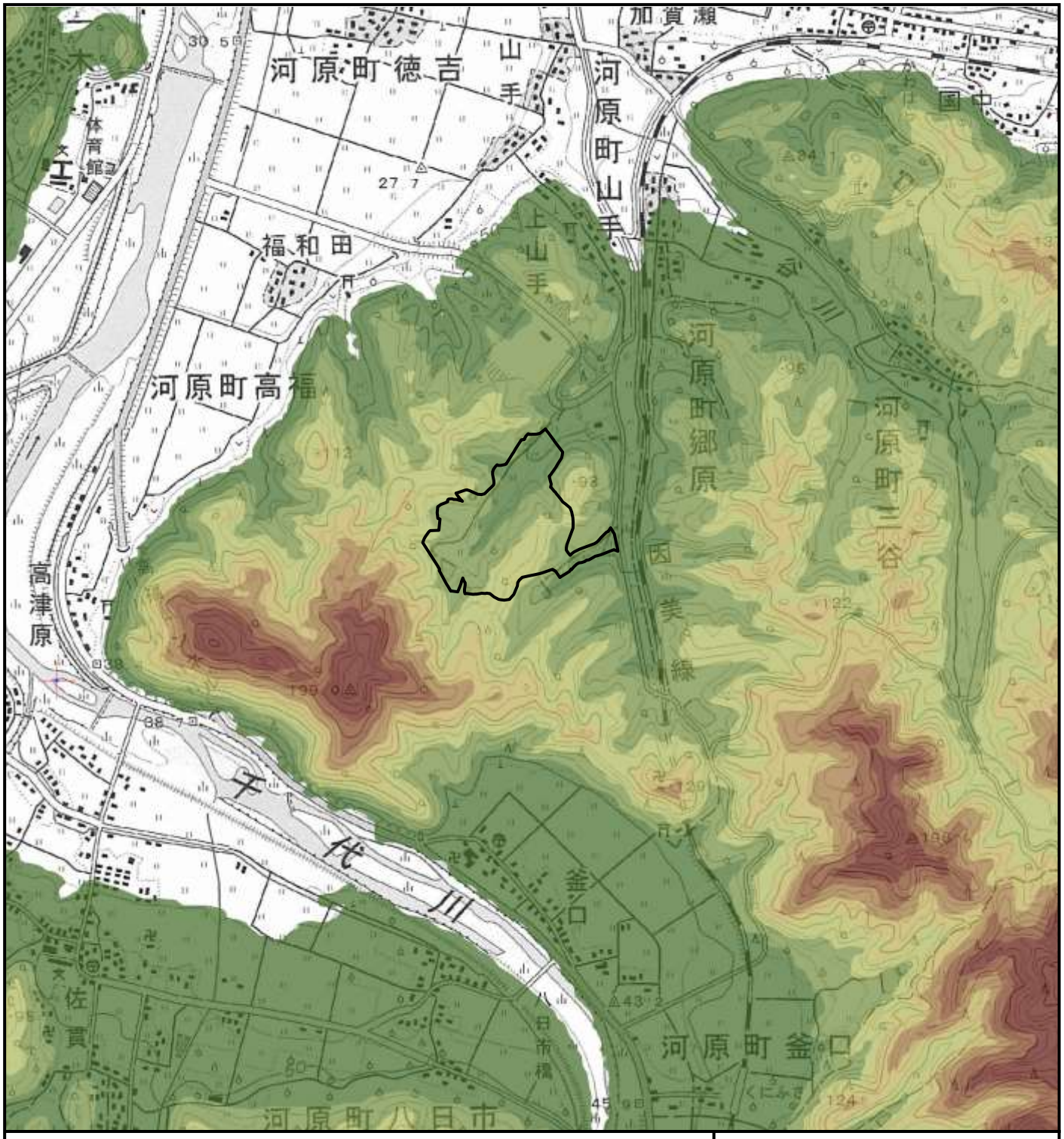
１：２５，０００

0　250　500m　1km

出典）「基盤地図情報数値標高モデル」（国土地理院ホームページ）を使用

この地図は、国土地理院発行の「２万５千分の１地形図（用瀬）」を使用したものである。

図 3－1.2　対象事業実施区域周辺の標高分布



凡　例

対象事業実施区域

標高（m）

0 −40	100−120
40 −60	120−140
60 −80	140−160
80 −100	160−

N

1：15,000

0　150　300　600m

出典）「基盤地図情報数値標高モデル」（国土地理院ホームページ）を使用

この地図は、国土地理院発行の「２万５千分の１地形図（用瀬）」を使用したものである。

図 3−1.3　対象事業実施区域周辺（概ね２km周囲）の標高分布

撮影年月日：平成 24 年 1 月 18 日

図 3－1.4　空中から見た地形

鳥取県では、県内のすぐれた自然を植物、動物、地形・地質ごとにまとめており、地形については、「鳥取県のすぐれた自然　地形・地質編」（平成５年３月）において表3－1.1(1)～(4)に示すものが選定されている。

対象事業実施区域の近傍では、霊石山が選定されている。

表 3－1.1(1)　火山性地形

名　　称	位　　置	選定の理由
扇ノ山	国府町ほか	第四紀更新世の玄武岩質火山群
河合谷高原	国府町ほか	溶岩流の台地

表 3－1.1(2)　非火山性地形

名　　称	位　　置	選定の理由
駟馳山	福部町ほか	海岸の独立峰、波食棚・海食崖の発達した岩石海岸
久松山	百谷ほか	花崗岩の孤立峰と山城の跡
因幡三山	桜谷ほか	孤立丘　（面影山、今木山、甑山）
霊石山	河原町ほか	メサ型地形
三角山（頭巾山）	用瀬町	急峻な傾斜をもつ山地
波多ノ台（黒岩高原）	用瀬町ほか	玄武岩溶岩流のつくる平坦な高原
鷲峰山	鹿野町ほか	気高郡内最高峰の孤立峰
吉岡・鹿野・岩坪活断層	鹿野町ほか	鳥取県で顕著な活断層

表 3－1.1(3)　河川（峡谷・滝・段丘）・湖沼

名　　称	位　　置	選定の理由
雨 滝	国府町	扇ノ山山麓の滝
雨滝峡谷	国府町	峡谷
安蔵川渓谷	用瀬町	花崗岩に形成された渓谷
佐治川渓谷	佐治町	渓谷
山王滝	佐治町	滝
三滝渓谷	河原町	千畳滝、夫婦滝などの多くの滝と急流河川
岩坪のおう穴	岩坪	おう穴
多鯰ケ池	浜坂ほか	砂丘と成因的に関連する池
湖山池	湖山ほか	面積の大きな潟湖
青島	高住	離れ島
鳴滝	青谷町	滝

備考）ほかに、赤波川渓谷おう穴群（用瀬町）。

表 3－1.1(4)　海岸・砂丘

名　　称	位　　置	選定の理由
鳥取砂丘	浜坂ほか	バルハン型の凹地が発達した海岸砂丘。火山灰により古砂丘、新砂丘に２分される。
白兎海岸	白兎	因幡の伝説で知られる砂浜海岸、波食棚
長尾鼻	青谷町ほか	広い岩棚をもつ海食崖
鳥取県内に分布する鳴り砂	浜坂ほか	清浄な砂粒からなる砂浜海岸

備考１）バルハン型とは、風によって生じる砂丘地形の一形態であり、日本ではその形状が三日月に似ていることから三日月型とも呼ばれている。

備考２）市町村名は、平成５年時点のものである。

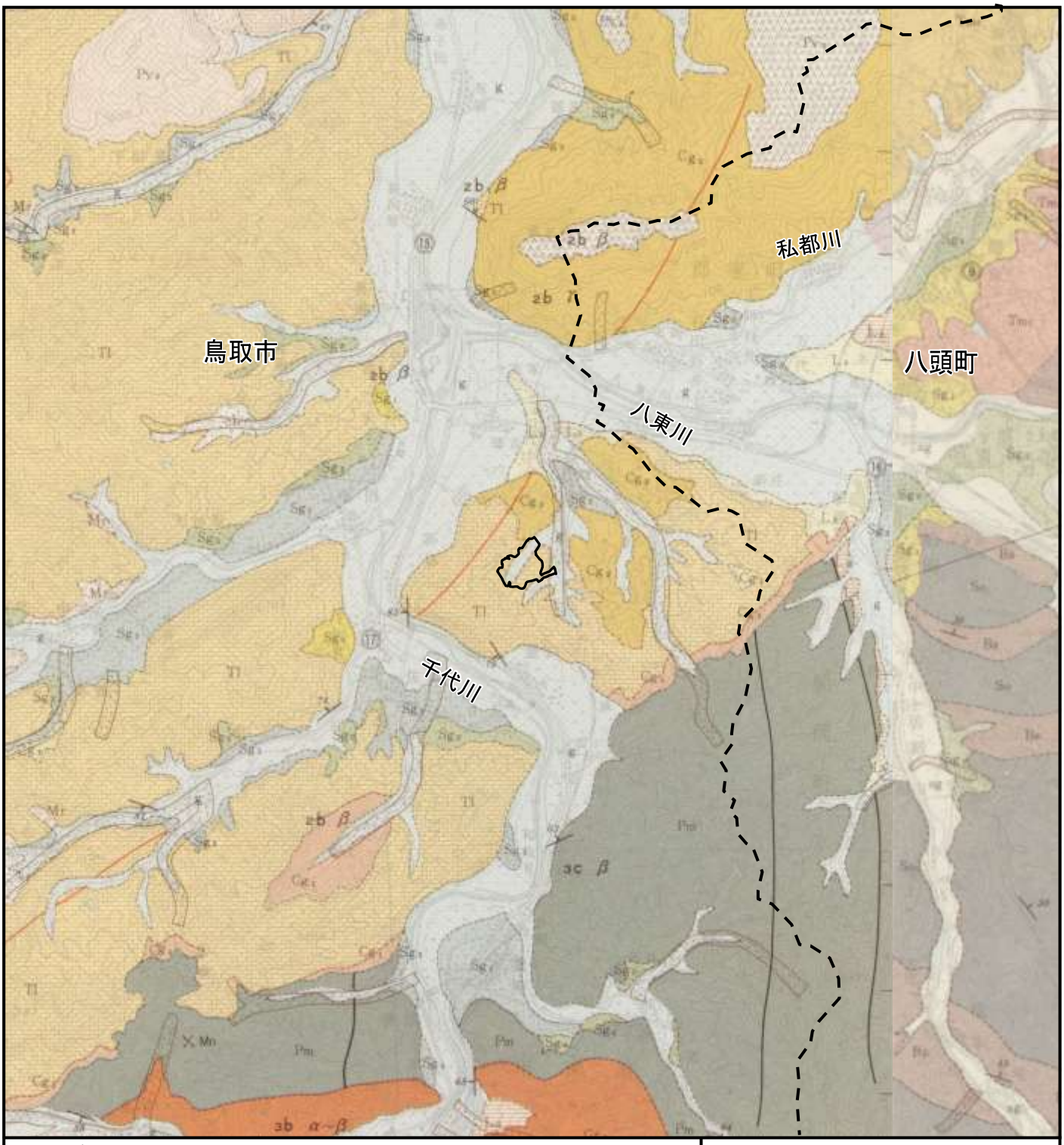
出典）「鳥取県のすぐれた自然　地形・地質編」（平成５年３月　鳥取県）

２．地質

土地分類調査による表層地質図は、図3－1.5のとおりであり、対象事業実施区域の地質は、尾根部分が河原火砕岩、谷部分が礫となっている。

河原火砕岩は、鳥取市河原町東部を中心とした地域や湖山池西岸地域などに広く分布している火山岩類であり、主に安山岩、玄武岩、凝灰角礫岩、凝灰岩などで構成されている。溶岩流の間に、礫岩、砂岩、泥岩の薄層が幾重にも挟まれているという特徴を持っている。

なお、対象事業実施区域の周辺は、地形上山麓地に分類されているが、この地形は、河原火砕岩が長い間に風化、侵食し形作ったものと言われている。



凡　例

対象事業実施区域　　市町界

	左側	右側
未固結堆積物	礫	砂＋礫
半固結堆積物	砂礫1	砂礫1
	砂礫2	砂礫2
	砂礫3	－
固結堆積物	－	礫岩・砂岩1
半固結～固結火山性岩石	ローム3(大山上郡火山灰)	－
	礫岩・砂岩(郡家礫岩層)	－
	礫岩・砂岩(円通寺礫岩、砂岩層)	－
火山性岩石	安山岩質岩石	－
	玄武岩質岩石	－
	河原火砕岩	－
	流紋岩質岩石	－
深成岩	花崗岩質岩石	－
変成岩	変成岩	黒色片岩
	－	珪質片岩

共通
地すべり防止地区
砂防指定地
断層
走向傾斜
向斜軸

出典）「土地分類基本調査　鳥取北部・鳥取南部、若桜・岡村」
（千葉大学環境リモートセンシング研究センターホームページ）

N

1：50，000

0　500m　1 km　2 km

図 3－1.5　表層地質図

「鳥取県のすぐれた自然　地形・地質編」（平成５年３月　鳥取県）によると、対象事業実施区域を含む鳥取市におけるすぐれた地質として、表3－1.2(1)～(3)に示す地質・地層等が選定されており、対象事業実施区域内では、河原火砕岩層が選定されている。

表 3－1.2(1)　地質（先新第三系・新第三系）

名　　称	位　　置	選定の理由
三郡変成岩中の枕状溶岩	河原町ほか	三郡変成岩中にみられる枕状溶岩：海底火山活動の証拠
郡家礫岩層	河原町ほか	郡家町を模式地とする鳥取層群の基底礫岩層
河原火砕岩層	河原町ほか	河原町を模式地とする鳥取層群の火砕岩層
円通寺礫岩砂岩層	円通寺ほか	河原町を模式地とする鳥取層群中部累層の基底礫岩層
普含寺泥岩層	国府町ほか	貴重で豊富な化石を産する鳥取層群の代表的地層
小田安山岩層	国府町ほか	岩見町小田を模式地とする鳥取層群の一部層
荒金火砕岩層	国府町ほか	岩見町荒金を模式地とする鳥取層群の火砕岩層
摩尼参道の柱状節理	覚寺	安山岩の柱状節理

表 3－1.2(2)　化石を含む地層

名　　称	位　　置	選定の理由
辰巳峠層の植物化石	佐治町	西日本における中新世後期を代表する化石植物群とその地層（県指定天然記念物）
宝木亜炭層の昆虫化石	気高町	白兎礫層中の亜炭層とネクイハムシ亜科を主とする昆虫化石
上地の動物化石	国府町上上地集落の周辺	鳥取層群岩美累層普含寺泥岩層の模式地と海生動物化石の産出地

表 3－1.2(3)　岩石・鉱物・鉱床

名　　称	位　　置	選定の理由
佐治川石	佐治町	三郡変成帯の緑色岩で鑑賞石
山口の“やしろみかげ”	用瀬町	節理の少ない良質の石材で、県内最古期の花崗岩の一つである用瀬花崗岩
南田石と円護寺石	福部町ほか	緑色凝灰岩で、加工しやすく火に強い石材

備考）市町村名は、平成５年時点のものである。
出典）「鳥取県のすぐれた自然　地形・地質編」（平成５年３月　鳥取県）

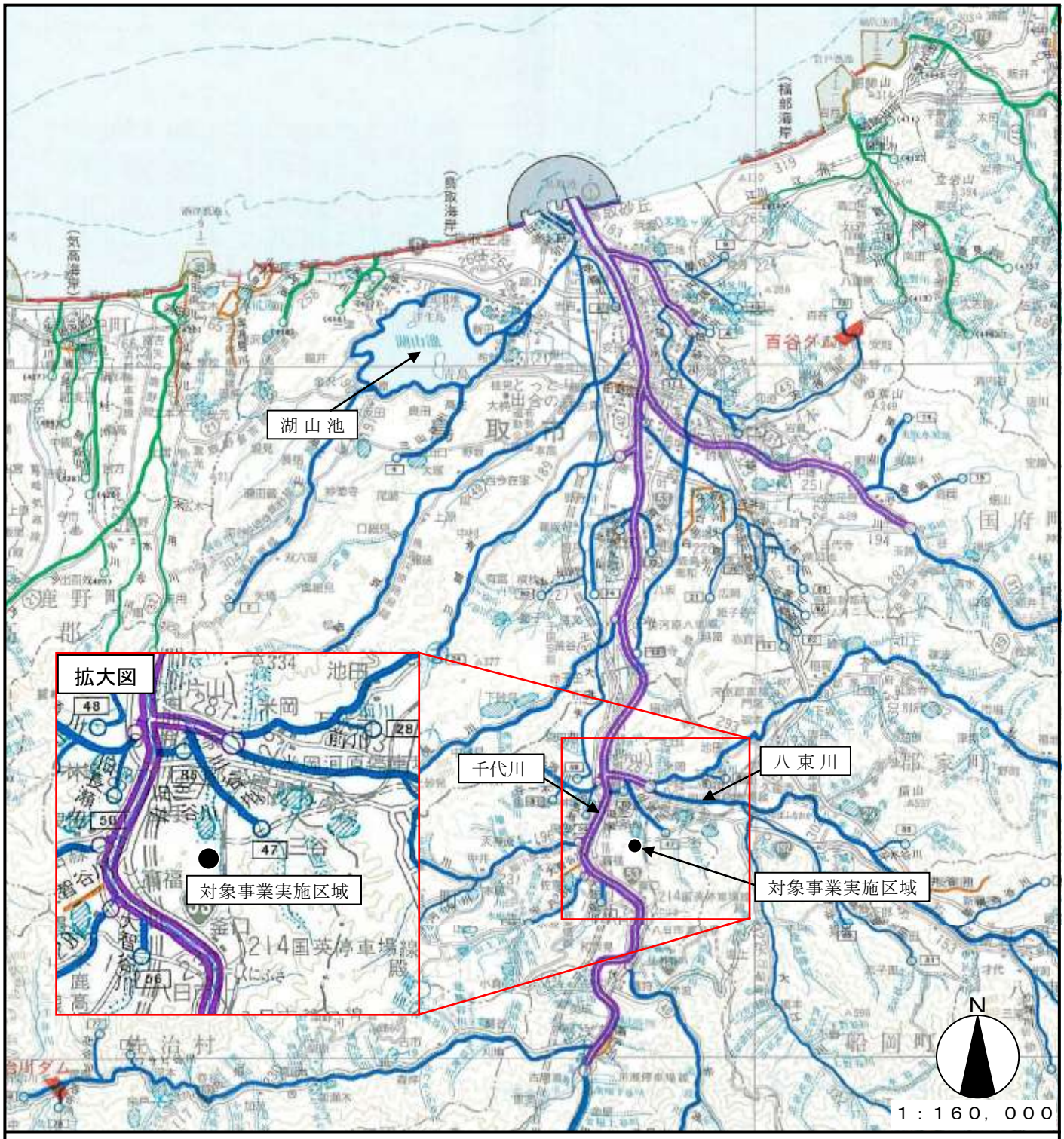
3-1-2　河川、湖沼、海域の状況

千代川水系と対象事業実施区域の位置関係は、図3－1.6に示すとおりである。

鳥取市の中央を南北に千代川が流れており、千代川に流れ込む大小の河川とともに千代川水系を形成している。

千代川は、鳥取県の三大河川の一つで、その源を鳥取県八頭郡智頭町の沖ノ山（1,319m）に発し、途中、佐治川・八東川・砂見川・袋川・野坂川等の支川を合せながら、鳥取平野の中央を貫流して、鳥取市浜坂より日本海に注いでいる。流域面積1,190㎢、関係市町村は鳥取市、八頭町、智頭町、若桜町である。流域には、「池」と名乗る湖沼の中では日本最大の湖山池があり、河口一帯には山陰海岸国定公園の特別保護地区に指定されている鳥取砂丘が広がっている。なお、鳥取砂丘を含む山陰海岸ジオパークは、平成20年12月に日本ジオパークとして、平成22年12月に世界ジオパークネットワークに加盟認定されている。

対象事業実施区域は、千代川の中流域に位置しており、北側には一級河川である八東川が流れている。



凡　例

- ● 対象事業実施区域
- 市町界
- 町村界
- 一級河川（指定区間外）
- 一級河川（指定区間）
- 二級河川
- 準用河川
- ダム（鳥取県）
- 海岸保全区域（国土交通省河川局）
- 海岸保全区域（農林水産省水産庁）
- 海岸保全区域（農林水産省農村振興局）
- 港湾区域
- 漁港区域
- 砂防指定地
- 地すべり
- 急傾斜地

出典）「鳥取県の河川」（鳥取県ホームページ）に加筆。

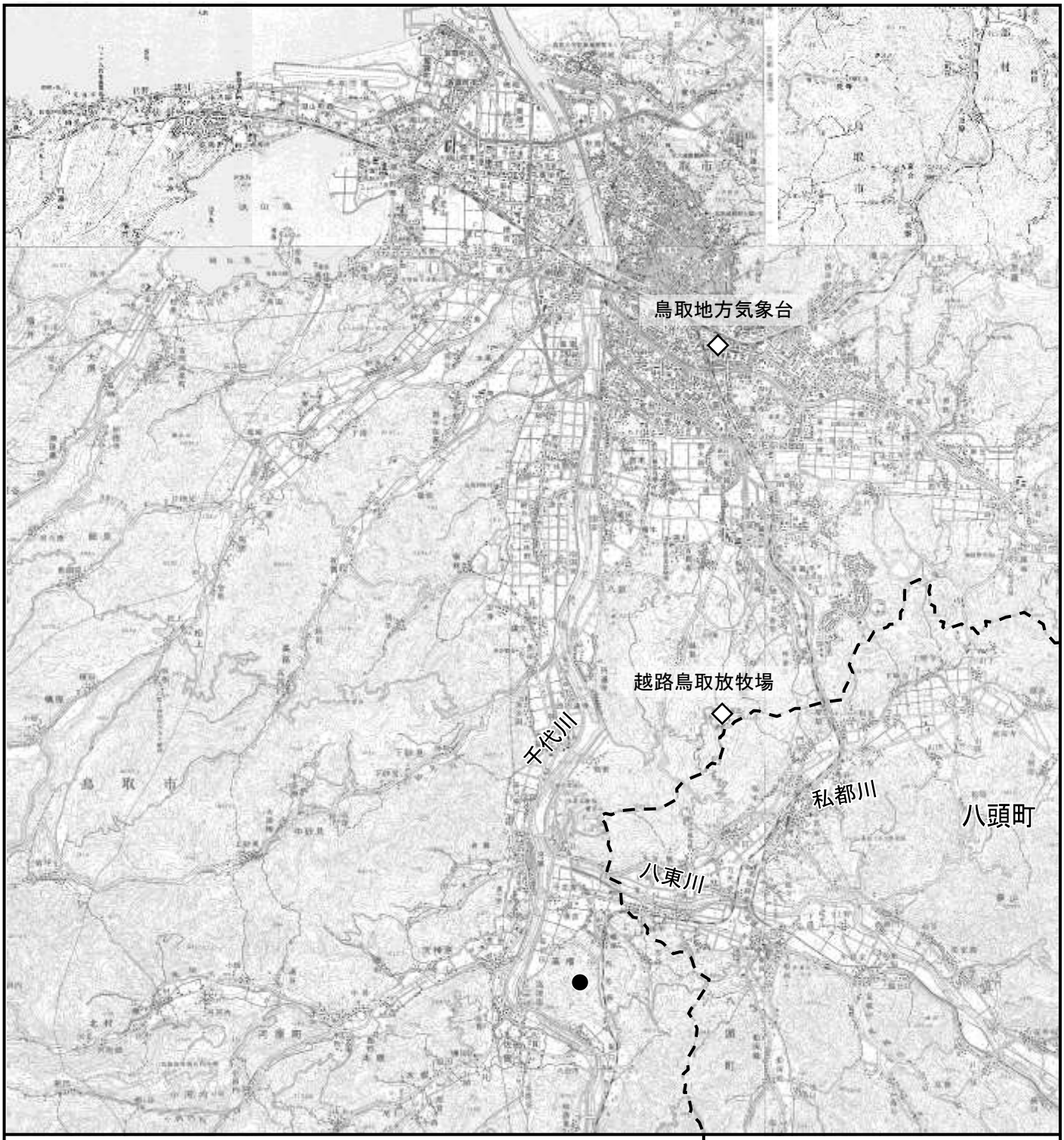
図 3－1.6　千代川水系と対象事業実施区域

3-1-3　気象の状況

対象事業実施区域の北約11kmに位置する鳥取地方気象台及び北北東約５kmに位置する越路鳥取放牧場の位置は、図3－1.7に示すとおりである。鳥取地方気象台による気象調査（平成29年度）及び鳥取県企業局による風向風速調査（平成14年度）の結果は、表3－1.3及び図3－1.8～10に示すとおりである。

表 3－1.3　鳥取地方気象台及び越路鳥取放牧場の気象の概要

項目	概　　要
風向	＜鳥取地方気象台データ＞ 年間では、東南東の風が比較的多く出現しており、秋季、冬季にその出現が顕著に現れている。春季、夏季は北北西の風も多く出現している。 （図3－1.8参照） ＜越路鳥取放牧場データ＞ 年間では、概ね南よりの風と北よりの風が卓越している。季節別の風向出現状況もほぼ同じである。 （図3－1.8参照）
風速	＜鳥取地方気象台データ＞ 年間及び各季節とも1.0～1.9m/s及び2.0～2.9m/sの風が多く出現しており、これら２階級で全体の概ね50%以上となっている。 （図3－1.9参照） ＜越路鳥取放牧場データ＞ 1.0～6.9m/sの範囲の風速が比較的多く出現している。 なお、観測場所は、標高340mの地点であるため、平地よりも強い風が吹きやすいものと考えられる。 （対象事業実施区域の標高は、現況で100m以下） （図3－1.9参照）
気温	＜鳥取地方気象台データ＞ 月別平均気温は、3.3～27.8℃であり、平年と比べて大きな変化はない。なお、鳥取地方気象台における月平均気温の30年間平年値（1981年～2010年）は、4.0℃（1月）～27.0℃（8月）となっている。 （図3－1.10参照）
降水量	＜鳥取地方気象台データ＞ 月別降水量は、46.5～353.5mmであり、９月及び10月が多くなっている。なお、鳥取地方気象台における月別降水量の30年間平年値（1981年～2010年）は、108.6mm（4月）～204.0mm（9月）となっている。 （図3－1.10参照）



凡　例

● 対象事業実施区域

- - - - 市町界

◇ 気象調査地点

出典）鳥取地方気象台ホームページ
「鳥取放牧場風力発電基本設計等業務委託報告書」
（平成 16 年３月、鳥取県企業局）

この地図は、国土地理院発行の「５万分の１地形図（鳥取北部）（浜坂）（鳥取南部）（若桜）」を使用したものである。

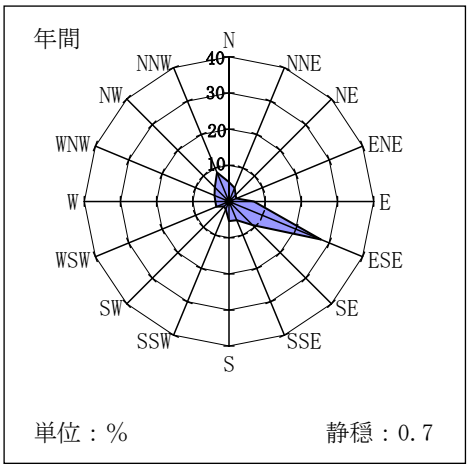
N

1：100，000

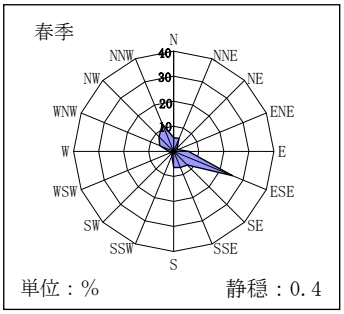
0　1　2　4 km

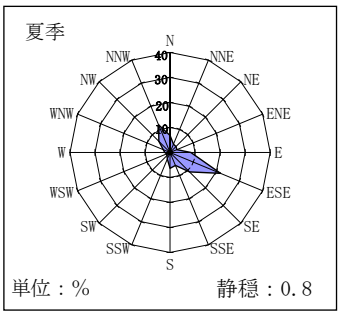
図 3－1.7　気象調査地点位置図

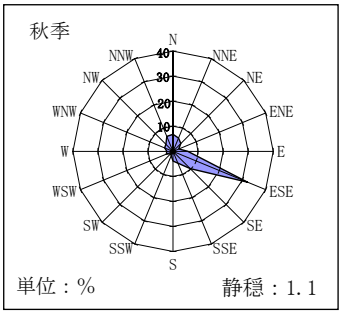
＜鳥取地方気象台データ＞

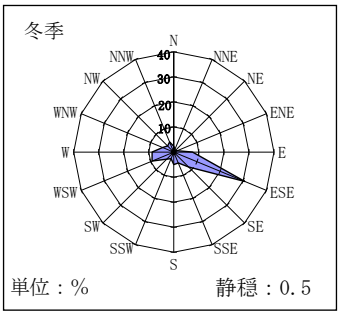


※ここでの静穏は、0.5m/秒未満を示す



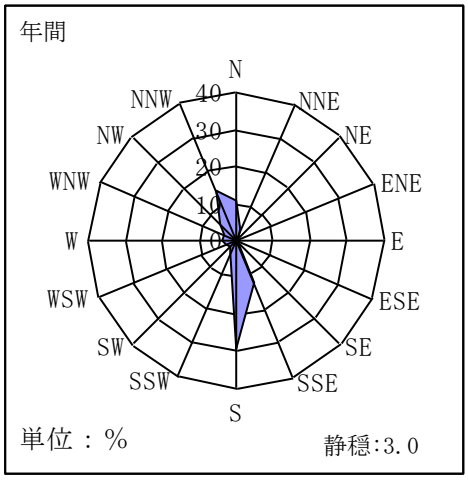


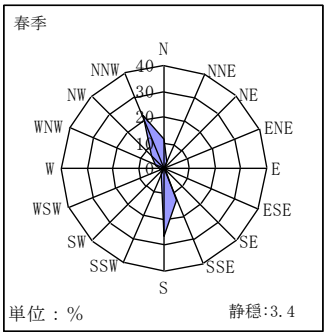


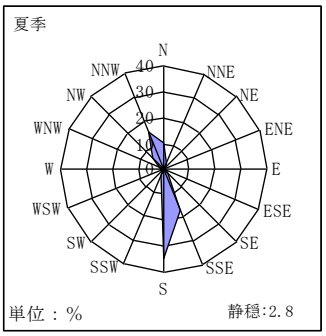


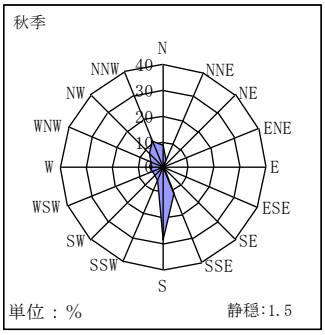
注１）平成 29 年４月１日～平成 30 年３月 31 日までのデータを集計。
注２）春夏秋冬は、次のとおり。
　　春季　３～５月、夏季　６～８月、秋季　９～11 月、冬季　12 月～２月
出典）気象庁ホームページ

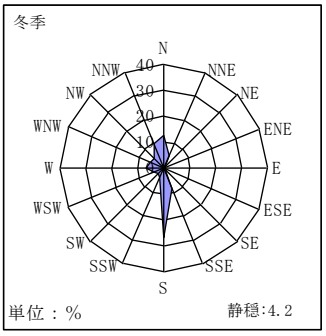
＜越路鳥取放牧場データ＞







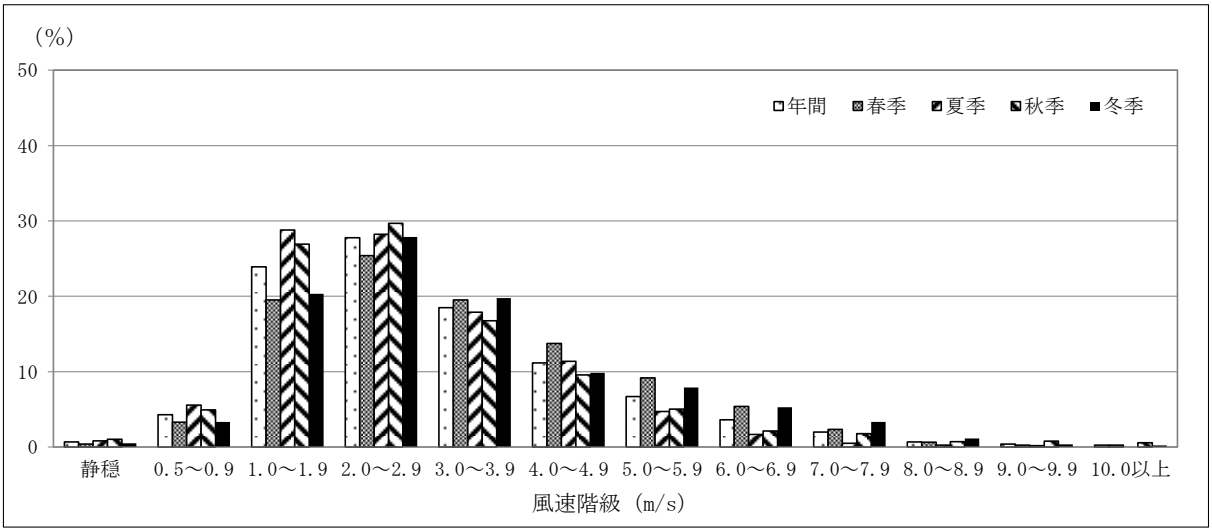




注１）平成 14 年４月１日～平成 15 年３月 31 日までのデータを集計。
注２）春夏秋冬の区分は、上記と同様。
出典）「鳥取放牧場風力発電基本設計等業務委託報告書」（平成 16 年３月、鳥取県企業局）

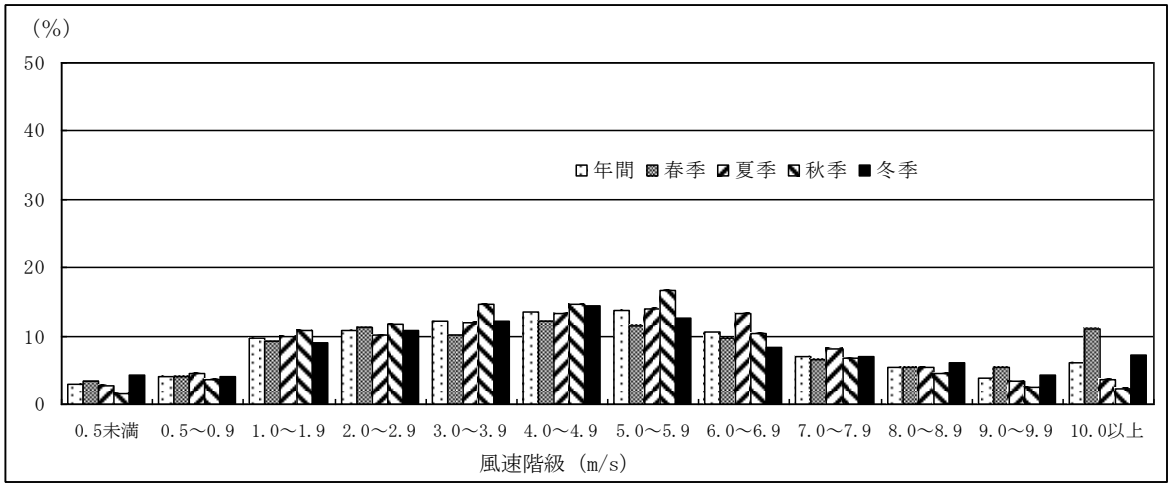
図 3－1.8　風向出現状況

＜鳥取地方気象台データ＞



注１）平成 29 年４月１日～平成 30 年３月 31 日までのデータを集計。
注２）春夏秋冬の区分は、風向と同様
出典）気象庁ホームページ

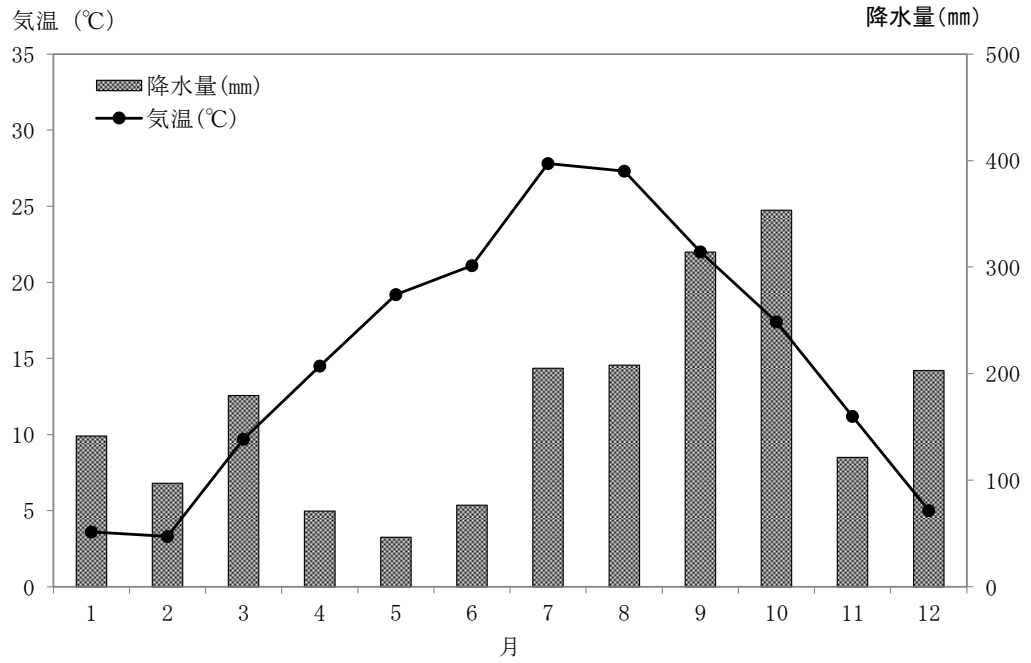
＜越路鳥取放牧場データ＞



注１）平成 14 年４月１日～平成 15 年３月 31 日までのデータを集計。
注２）春夏秋冬の区分は、風向と同様
出典）「鳥取放牧場風力発電基本設計等業務委託報告書」（平成 16 年３月、鳥取県企業局）

図 3－1.9　風速階級別出現状況

＜鳥取地方気象台データ＞



平成 29 年４月１日～平成 30 年３月 31 日までのデータを集計。
出典）気象庁ホームページ

図 3－1.10　気温及び降水量の月別変化

3-1-4　植物の状況

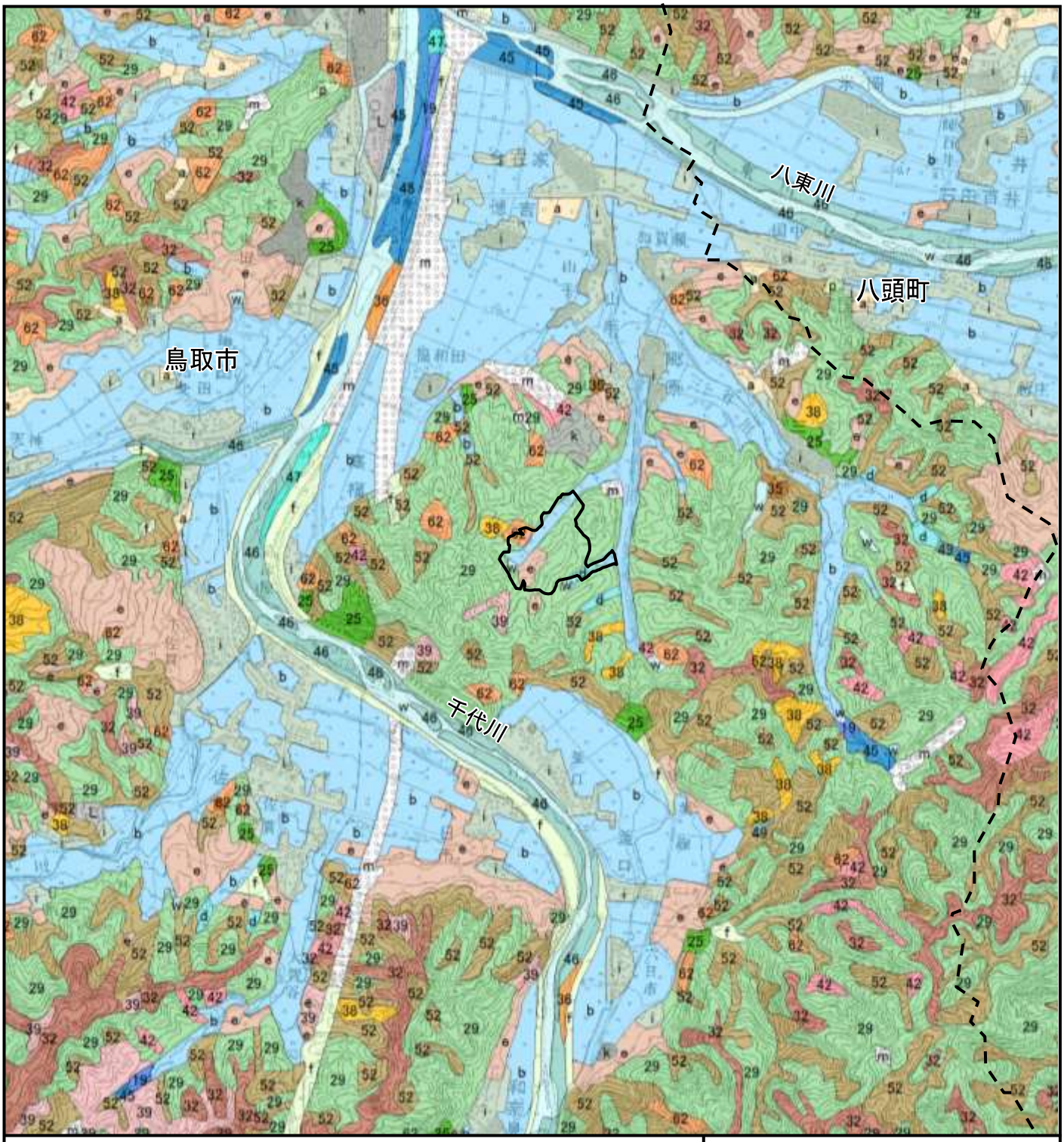
１．植生

対象事業実施区域周辺の植生は、図3－1.11に示すとおりである。対象事業実施区域はコナラ群落、水田、果樹園が含まれる。また、近傍には、スギ・ヒノキ・サワラ植林、低木群落、クズ群落、竹林等がみられる。

また、鳥取県が公開している樹種分類図は図3－1.12に示すとおりである。対象事業実施区域及びその周辺は主にその他広葉樹となっており、そのほかに竹林、マツ、分類重複となっている部分もみられる。

平成23年度及び1947年(米軍撮影　発行者(財)日本地図センター）に撮影した航空写真による植生の現況の様子は、図3－1.13に示すとおりである。1947年においては、現在よりも水田が上流まで続いていること、斜面は低木または耕作地として利用されていたことなどが分かる。現在では、斜面部はほぼコナラ群落となっている。

なお、「第２回自然環境保全基礎調査」（昭和53年　環境庁）及び「第3回自然環境保全基礎調査」(昭和59～61年度　環境庁)によると、対象事業実施区域及びその周辺に特定植物群落は報告されていない。



凡　例

対象事業実施区域

市町界

この地図は、国土地理院発行の「２万５千分の１地形図（用瀬）」を使用したものである。

19	ヤナギ高木群落(VI)	42	伐採跡地群落(VII)	a	畑雑草群落
25	シイ・カシ二次林	45	ヨシクラス	b	水田雑草群落
29	コナラ群落(VII)	46	ツルヨシ群集	d	放棄水田雑草群落
32	アカマツ群落(VII)	47	オギ群集	k	市街地
35	タケ・ササ群落	49	ヒルムシロクラス	i	緑の多い住宅地
36	メダケ群落	52	スギ・ヒノキ・サワラ植林	p	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
38	低木群落	62	竹林	L	工場地帯
39	クズ群落	f	路傍・空地雑草群落	m	造成地
		e	果樹園	w	開放水域

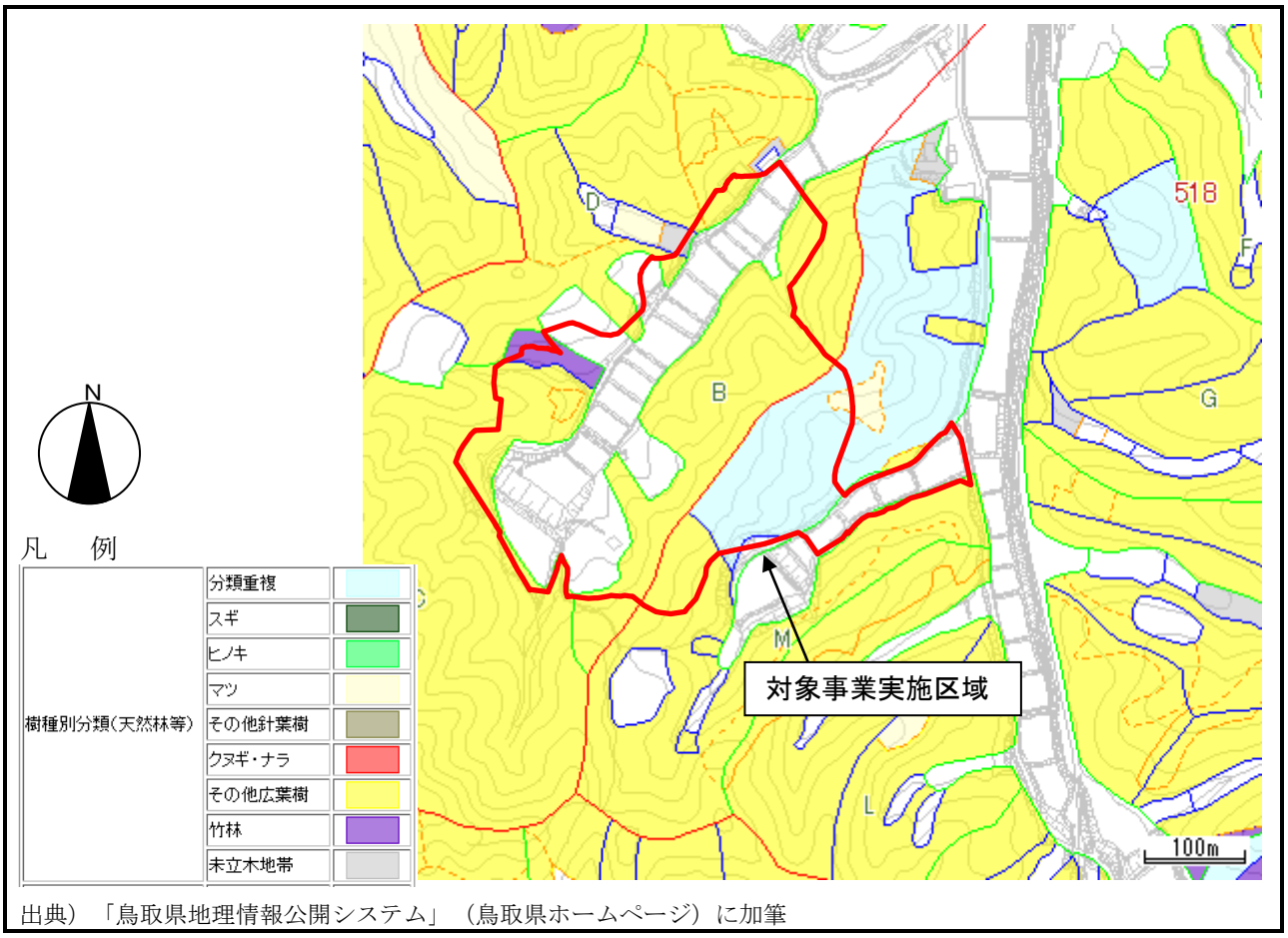
N

１：２５，０００

0　250　500m　1km

出典）「第６回・第７回自然環境保全基礎調査　植生調査（用瀬）」
（第６回・第７回自然環境保全基礎調査　植生調査　情報提供ホームページ）

図 3－1.11　対象事業実施区域周辺の現存植生図



出典）「鳥取県地理情報公開システム」（鳥取県ホームページ）に加筆

図 3－1.12　樹種分類図

撮影年月日：平成24年１月18日

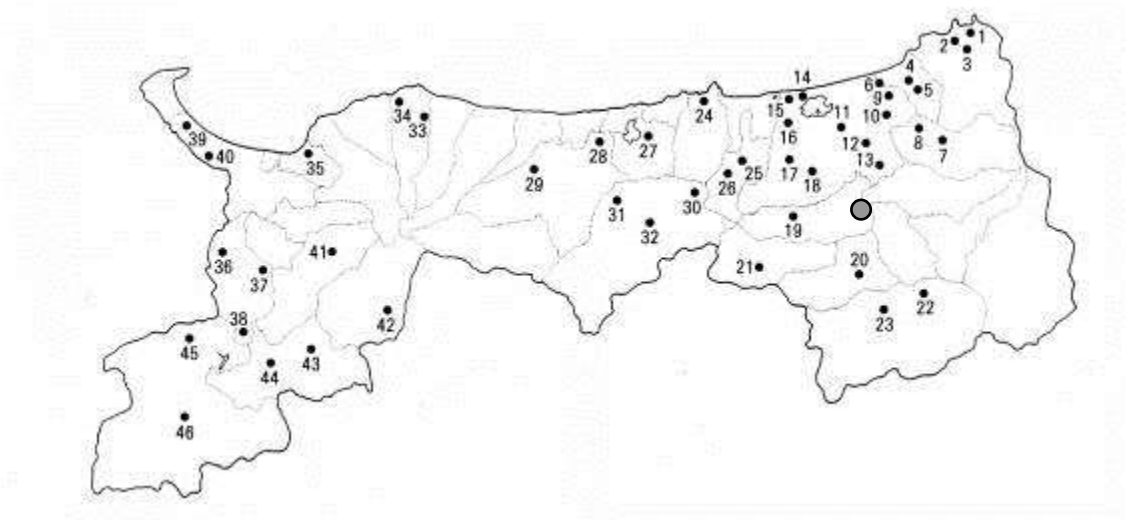
1947年の状況
（米軍撮影　発行者(財)日本地図センター）

図 3－1.13　航空写真による植生の状況

２．県内の貴重な植物等

「鳥取県のすぐれた自然　植物編」(平成５年12月　鳥取県) でとりまとめられている「社叢」、「森林」、「低木林・草原」、「湿原・湿地林」、「貴重植物群生地」の位置は、図3－1.14(1)～(5)に示すとおりである。

なお、対象事業実施区域は、いずれにも含まれていない。

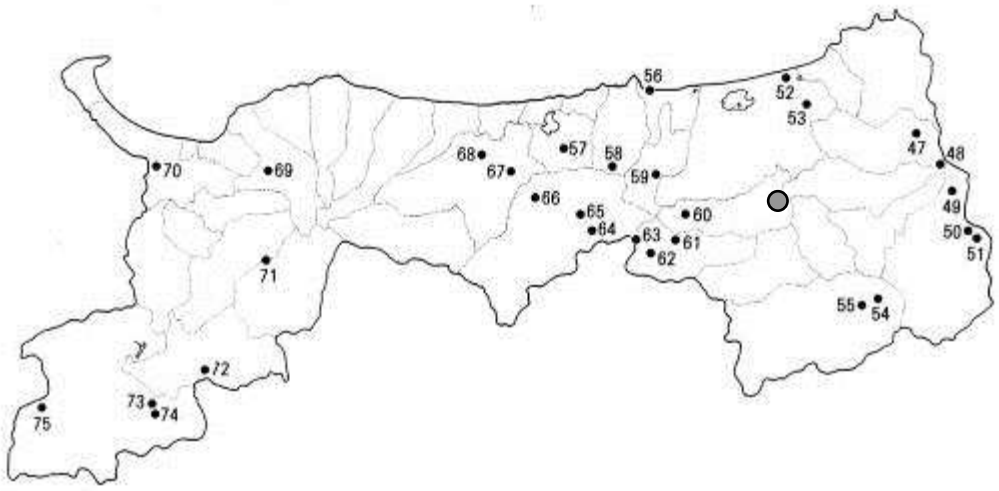


● は、対象事業実施区域を示す。

1. 廿露神社社叢	17. 矢矯神社社叢	33. 中山神社社叢
2. 小羽尾神社のヒメユズリハ林	18. 松上神社社叢	34. 逢坂八幡神社社叢
3. 岩美町浦富の熊野神社社叢	19. 権現の森	35. 淀江町西原の日吉神社社叢
4. 坂谷神社社叢	20. 犬山神社社叢	36. 西伯町馬場の長田神社社叢
5. 南田神社社叢	21. 金山神社社叢	37. 金華山, 熊野神社社叢
6. 多鯰ヶ池の弁財天社叢	22. 虵井神社社叢	38. 西伯町人木屋の住吉神社社叢
7. 高岡神社社叢	23. 智頭町の諏訪神社社叢	39. 和田御崎神社社叢
8. 宇倍神社社叢	24. 相屋神社社叢	40. 粟島神社社叢
9. 椎谷神社社叢	25. 鷲峰神社社叢	41. 溝口町宮原の楽楽福神社社叢
10. 樗谿谷神社社叢	26. 茂宇気神社社叢	42. 江府町俣野の熊野神社社叢
11. 大野見宿弥命神社社叢	27. 松崎神社社叢	43. 根雨神社社叢
12. 倉田八幡宮社叢	28. 波波伎神社社叢	44. 日野町黒坂の聖神社社叢
13. 意上奴神社社叢	29. 桜神社社叢	45. 印賀大宮の楽楽福神社社叢
14. 伏野神社社叢	30. 俵藤太の森	46. 日谷神社社叢
15. 白兎神社社叢	31. 今泉神社社叢	
16. 御熊神社社叢	32. 花倉山, 笏賀神社社叢	

備考）市町村界は、平成５年時点のものである。
出典）「鳥取県のすぐれた自然　植物編」（平成５年 12 月　鳥取県）

図 3－1.14(1)　鳥取県内のすぐれた社叢

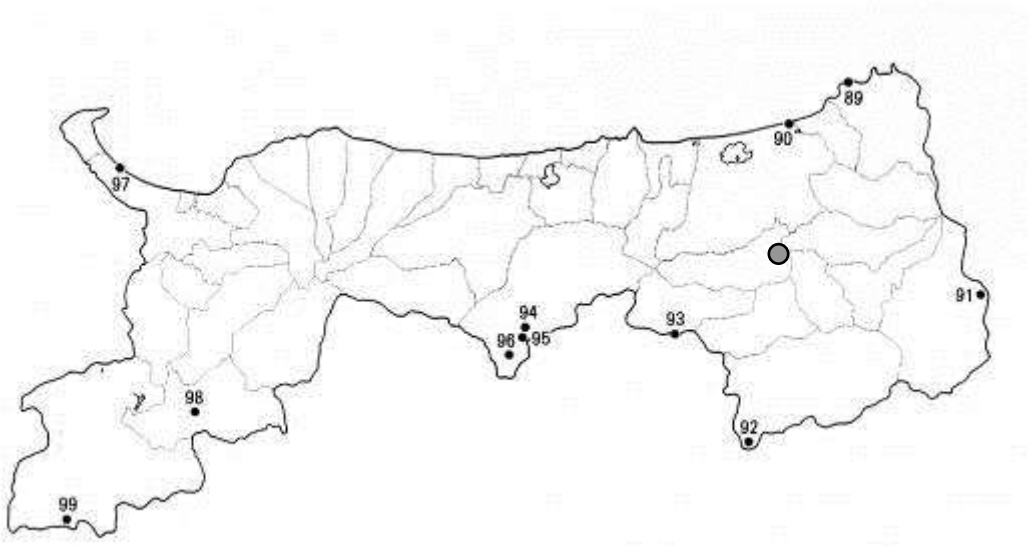


● は、対象事業実施区域を示す。

47. 雨滝周辺の自然林	62. 山王滝周辺の自然林
48. 扇ノ山のブナ林	63. 三国山のブナ林
49. 大鹿滝周辺の渓谷林	64. 小鹿渓の渓谷林
50. 氷ノ山の自然植生	65. 三徳山の自然林
51. 氷ノ山仙谷の渓谷林	66. 三朝町湯谷川のウラジロガシ林
52. 合ヶ谷スリバチのクロマツ林	67. 打吹山の城跡自然林
53. 久松山の城跡自然林	68. 四王寺山北面のウラジロガシ林
54. 鳴滝山のブナースギ林	69. 赤松池周辺のアカマツ林
55. 芦津渓の渓谷林	70. 米子城山(湊山)の自然林
56. 船磯のスダジイ林	71. 日野川の急崖地のアラカシ群落
57. 羽衣石城跡のムクノキ林	72. 滝山のアカマツ林とウラジロガシーイヌブナ林
58. 青谷町飯盛山のブナ林	73. 生山のアカマツ自然林
59. 鷲峰山のブナ林	74. 石霞渓の渓谷崖地林
60. 三滝渓の渓谷林	75. 船通山の自然植生
61. 高鉢山・北谷の自然林	

備考）市町村界は、平成５年時点のものである。
出典）「鳥取県のすぐれた自然　植物編」（平成５年 12 月　鳥取県）

図 3－1.14(2)　鳥取県内のすぐれた森林

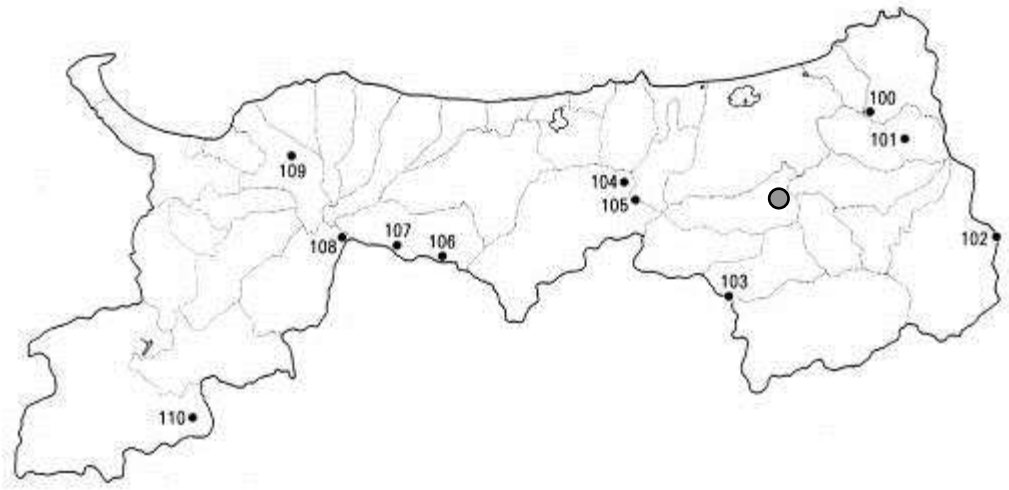


● は、対象事業実施区域を示す。

89. 浦富海岸の海浜植生	95. 田代高原の風衝草原
90. 鳥取砂丘の植生	96. 若杉山のススキ草原
91. 氷ノ山古敷岩の植生	97. 弓ケ浜海岸の砂丘植生
92. 那岐山の低木林と風衝草原	98. 日野川のキシツツジ群落
93. 八本越三原台のススキ草原	99. 道後山山頂周辺の低木林と草原
94. 高丸山のベニドウダン群落	

備考）市町村界は、平成５年時点のものである。
出典）「鳥取県のすぐれた自然　植物編」（平成５年 12 月　鳥取県）

図 3－1.14(3)　鳥取県内のすぐれた低木林・草原

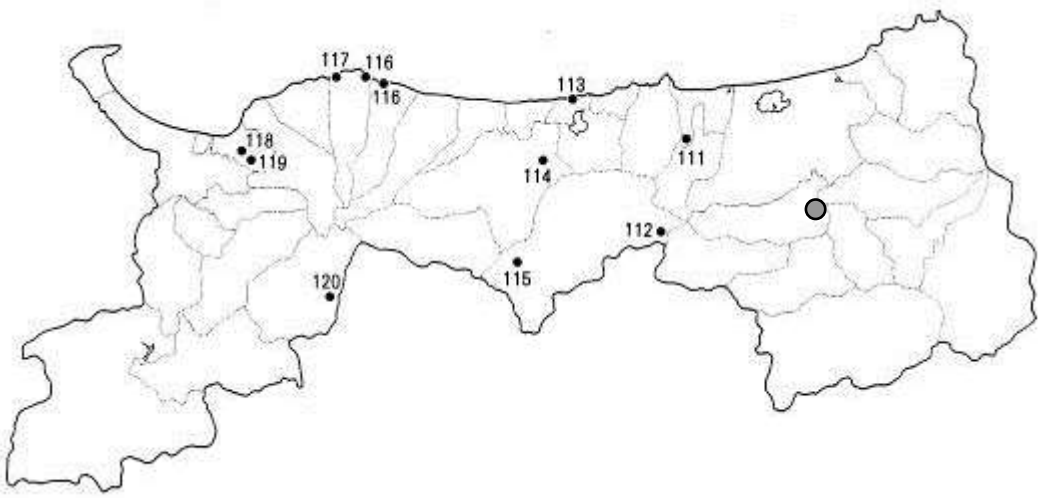


● は、対象事業実施区域を示す。

100. 唐川湿原	106. 犬挟峠湿原
101. 菅野湿原	107. 蛇ヶ屺湿原
102. 古生沼湿原	108. 鏡ヶ成湿原
103. 波多ノ台(黒岩高原)の草原	109. 大沢池のハンノキ林
104. 俵原のミツガシワ湿原	110. 神戸ノ上のハンノキ林
105. 中津北尾根のミツガシワ湿原	

備考）市町村界は、1993 年時点のものである。
出典）「鳥取県のすぐれた自然　植物編」（平成５年 12 月　鳥取県）

図 3－1.14(4)　鳥取県内のすぐれた湿原・湿地林



● は、対象事業実施区域を示す。

111. 布勢平神社のバイカモ水生群落	116. 篦津～御崎海岸のハマヒサカキ群落
112. 竹田谷のリュウキンカ群生地	117. 松河原のハマナス群落
113. 橋津海岸のトウテイランーオオエゾデンダ群落	118. 本宮の泉のバイカモ水生群落
114. 田内城山(仏石山)のアオネカズラ群生地	119. 天の真名井のバイカモ水生群落
115. 福山の滝のオサシダ群生地	120. 三平山山麓のサクラソウ群生地

備考）市町村界は、1993 年時点のものである。
出典）「鳥取県のすぐれた自然　植物編」（平成５年 12 月　鳥取県）

図 3－1.14(5)　鳥取県内の貴重植物群生地

３．保存樹木

鳥取市では、「鳥取市自然保護及び環境保全条例」により指定保存樹木を定めている。名木や古木等の保存すべき樹木は、表3－1.4に示すとおりであり、24ヵ所が指定されている。

なお、対象事業実施区域内には、指定を受けた名木・古木はない。また、対象事業実施区域周辺では、東側約１kmに鳥取市指定文化財である「三谷神社の大しだれ桜」が存在している。

表 3－1.4　指定保存樹木（名木・古木）

名　　称	樹種	指定時 樹齢（年）	樹高（m）	所在地	指定 年度
男松・女松	マツ	350	4～5	戎町506	昭和53
八幡宮参道松並木	マツ	320以上	－	馬場229	昭和53
賀露神社社叢	マツ	400～500	22～29	賀露町北1－21－8	昭和53
下味野神社の榎	エノキ	460	17.8	下味野161－2	昭和53
河内神社社叢	カゴノキ	200～300	25	河内298	昭和53
浄源寺のモッコク	モッコク	200	10	上原271	昭和53
梨の親木	ナシ	100	2	桂見403－3	昭和53
聖神社社叢	イチョウ ケヤキ	290以上	28 26	行徳2－705	昭和53
長田神社のケヤキ	ケヤキ	250以上	27	東町1－101	昭和53
国安稲荷神社のシイ	シイ	500	12	国安20	昭和53
荒神椋	ムク	1,000	28	横枕地内	昭和53
卯垣神社社叢	シイ スギ	1,000	13 34	卯垣1－224	昭和53
八幡宮社叢	ケヤキ	470	15～17	古海41	昭和53
渡辺家の藤と椎の木	フジ スダジイ	100以上	8	越路地内	昭和62
正福寺の銀杏と五葉の松	イチョウ ヒメコマツ	約700 約400	29.6 30	河内460	昭和62
玉屋神社の大杉	スギ	－	－	上味野	昭和62
甲山神社のタブノキ	タブノキ	300～350	11.5	里仁地内	昭和62
奈佐日本之助の墓のタブノキ	タブノキ	400以上	9.2	浜坂地内	昭和62
天然庵のイヌマキ	イヌマキ	約400	10	円護寺地内	昭和62
安長堤防林	タブノキ他	－	－	安長地内	平成４
一里松	マツ	約150	約8	浜坂	平成13
二ノ丸の黒松	マツ	約400	20	鹿野町鹿野884	平成18
幸盛寺の大銀杏	イチョウ	400以上	34	鹿野町鹿野1306	平成18
南田神社社叢	スダジイ他	－	－	福部町南田地内	平成18

出典）「鳥取市の名木古木」（鳥取市ホームページ）

４．潜在自然植生

文献による潜在自然植生は、図3－1.15に示すとおりである。

「日本植生史　中国　中国地方潜在自然植生図（1983年　至文堂)」によれば対象事業実施区域及びその周辺の潜在自然植生として考えられる植生単位は、ヤブツバキクラス域のヤブコウジ-スダジイ群集、シラカシ群集及びヒメアオキ-ウラジロガシ群集が挙げられる。

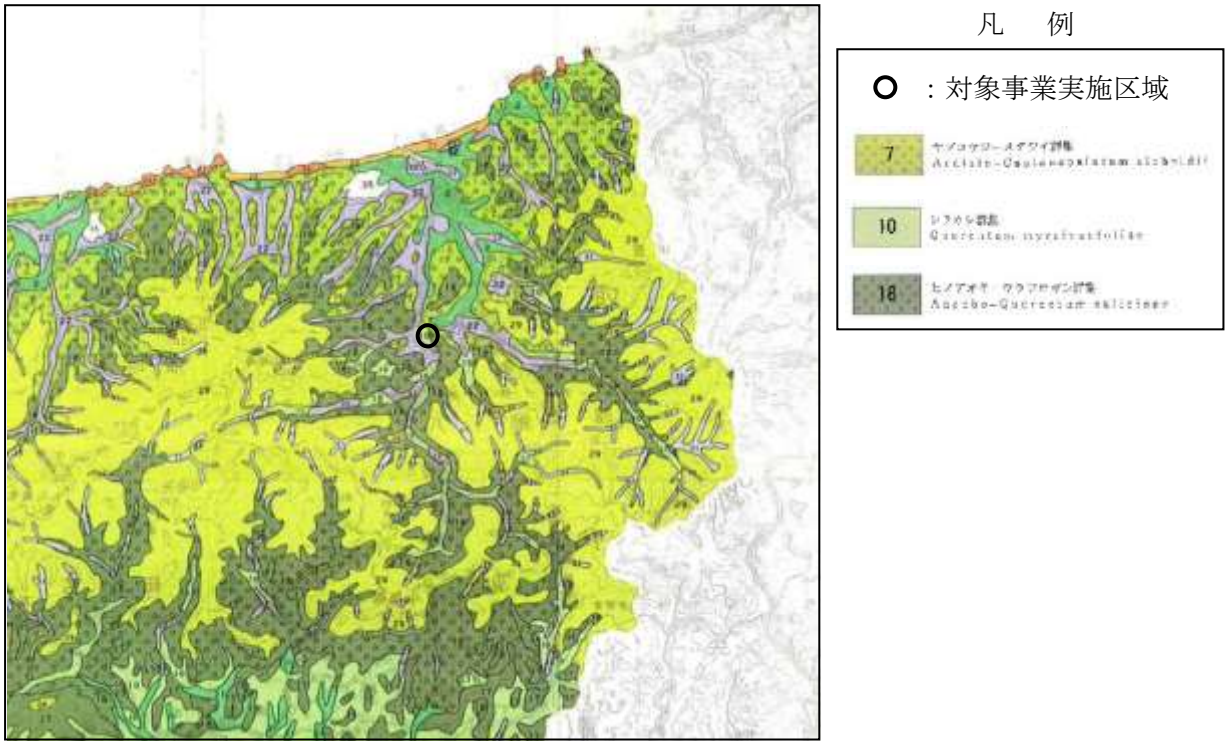


図 3－1.15　中国地方潜在自然植生図

3-1-5　動物の状況

１．動物相の状況

第５回・第６回自然環境保全基礎調査（環境省）及び鳥取県生活環境部提供データによる対象事業実施区域及びその周辺の主要な動物相の状況は、表3－1.5に示すとおりである。

表 3－1.5　主要な動物相の状況

分類群	主要な動物相
ほ乳類	ニホンザル、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、アナグマ、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンリス、ノウサギ、アライグマなど
鳥類	カイツブリ、ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、オシドリ、カルガモ、トビ、ツミ、ハイタカ、サシバ、ヤマドリ、キジ、イカルチドリ、キジバト、アオバト、ジュウイチ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、コノハズク、アオバズク、フクロウ、ヨタカ、ハリオアマツバメ、アカショウビン、カワセミ、ブッポウソウ、アオゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、サンショウクイ、ヒヨドリ、モズ、カワガラス、ミソサザイ、コルリ、イソヒヨドリ、トラツグミ、マミジロ、クロツグミ、ヤブサメ、ウスイス、オオヨシキリ、メボソムシクイ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウ、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、カワラヒワ、イカル、スズメ　など
は虫類	－
両生類	ヒダサンショウウオ、イモリ、アマガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル　など
昆虫類	ホソミイトトンボ、キイトトンボ、クロイトトンボ、ホソミオツネントンボ、ハグロトンボ、ニシカワトンボ、オジロサナエ、コオニオヤンマ、ギンヤンマ、コヤマトンボ、シオカラトンボ、ハラビロトンボ、ミヤマセセリ、ヒメキマダラセセリ、イチモンジセセリ、ギフチョウ、アオスジアゲハ、キアゲハ、ナミアゲハ、キチョウ、モンシロチョウ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミ、トラフシジミ、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、イチモンジチョウ、サカハチチョウ、キタテハ、アカタテハ、オオムラサキ、ヒメウラナミジャノメ、ヒメキマダラヒカゲ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミ、アメンボ、タガメ、タイコウチ、マツモムシ、ミヤマクワガタ、コクワガタ、ヒラタクワガタ　など
淡水魚類	ウナギ、ウグイ、タカハヤ、オイカワ、カワムツ類、ムギツク、カマツカ、タモロコ、コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、ドジョウ、シマドジョウ、ギギ、ナマズ、アユ、サケ、カマキリ、ドンコ、シマヨシノボリ　など
陸産及び淡水産貝類	イシマキガイ、ヤマキサゴ、ヤマタニシ、ミジンヤマタニシ、ハリマムシオイガイ、ゴマガイ、コベルトゴマガイ、イブキゴマガイ、オオウエゴマガイ、ニホンケシガイ、モノアラガイ、マルナタネガイ、キセルガイモドキ、ナメクジ、ツノイロヒメベッコウ、ヒメベッコウガイ、キビガイ、カサキビ、ドブガイ、カラスガイ、マシジミ　など

出典）「第５回・第６回自然環境保全基礎調査」（環境省）、「鳥取県生活環境部提供データ」

２．重要生息地

「鳥取県のすぐれた自然　動物編」によると、鳥取県内の動物の重要生息地は、表3－1.6(1)～(3)に示すとおりである。対象事業実施区域及びその周辺は、重要生息地には該当していない。

表 3－1.6(1)　鳥取県内の動物の重要生息地

名　　称	所在地	保全すべき動物の例示
鳥取砂丘	鳥取市、福部村	イソコモリグモなど砂丘動物、キマダラルリツバメ
多鯰ヶ池	鳥取市	アカヒレタビラ、トモエガモ
久松山、樗谿公園、太閤平、小西谷	鳥取市	キマダラルリツバメ、ギフチョウ、オオムラサキ、キシノウエトタテグモ
待居(千代川河川敷残存林)	鳥取市	ゴホントゲザトウムシ
千代川河川敷	鳥取市	夏のサギ類、冬のカモ類
賀露海岸	鳥取市	カモメ類、シノリガモ、カロナギサダニ
湖山（湖山小学校近くの墓地付近)	鳥取市	イナバカブリダニ、コヤマカブリダニ
猪子	鳥取市	サンコウチョウ、アカマツハタケグモ
雨滝	国府町	ギフチョウ、キマダラルリツバメ
扇ノ山	国府町、郡家町、若桜町	ワシ・タカ類、コルリ、コノハズク、ルリビタキ、ハコネサンショウウオ
陸上～大羽尾～網代	岩美町	クロサギ、イソヒヨドリ、ワシ・タカ類、キジ
大江～栃谷	船岡町	ワシ・タカ類、ブッポウソウ、ギフチョウ
三滝渓	河原町	アカショウビン、スギタニルリシジミ
広留野高原・大鹿滝	若桜町	オシドリ・ワシ・タカ類、コノハズク
諸鹿	若桜町	ヤマネ、ワシ・タカ類、オシドリ
陣鉢山	若桜町	ヤマネ、ゴジュウカラ、ワシ・タカ類
氷ノ山、春米、茗荷谷	若桜町	ツキノワグマ、ヤマネ、クロジ、メボソムシクイ、ブッポウソウ、コルリ
戸倉峠	若桜町	ムカシトンボ、ヒライワスベザトウムシ
三室山	若桜町	コルリ、メボソムシクイ
加地～大通峠	若桜町	ヤマメ、ヤマスベザトウムシ
中原	若桜町	ツキノワグマ、イナバヤチグモ
糸白見	若桜町	ツキノワグマ、ワシ・タカ類、ヤマメ
吉川～若杉峠～江浪峠山地	若桜町	ツキノワグマ、ワシ・タカ類、オオルリ、カッコウ、ホトトギス
宮原：犬山神社社叢	用瀬町	ヒメハルゼミ
葛谷：刈地神社	佐治村	ヒメハルゼミ
余戸:金山神社社叢	佐治村	ヒメハルゼミ
高鉢山	佐治村	ワシ・タカ類、アカネキスジトラカミキリ、シラユ、キヒメハナカミキリ
三国山	佐治村	ワシ・タカ類、アカショウビン、ヤマセミ、ヒサマツミドリシジミ

備考１）「鳥取県のすぐれた自然　動物編」の重要生息地は次の基準により選定されている。
①環境庁の RDB（1991）で絶滅危惧種あるいは危急種とされている種又は個体群の主要な生息地
②中国地方あるいは鳥取県の固有種あるいは固有亜種で生息域の比較的狭い種の生息確認地
③特定の種（あるいは亜種）の日本における分布限界（北限・南限など）となっている集団の生息地
④特定の種の模式産地
⑤その他、中国地方での代表的な生息地として保全が特に望まれる地点
備考２）市町村名は、平成５年時点のものである。
出典）「鳥取県のすぐれた自然　動物編」（平成５年 11 月　鳥取県）

表 3－1.6(2)　鳥取県内の動物の重要生息地

名　　称	所在地	保全すべき動物の例示
駒帰～沖ノ山林道	智頭町	ツキノワグマ、アカサビザトウムシ
沖ノ山	智頭町	ツキノワグマ
東山	智頭町	ツキノワグマ、ワシ・タカ類
芦津渓谷	智頭町	ツキノワグマ、ワシ・タカ類、オシドリ、ゴジュウカラ、ヤマセミ
芦津:堂本～八河谷	智頭町	ツキノワグマ
右手峠	智頭町	イラカザトウムシ、イトヤスデ
那岐山	智頭町	メボソムシクイ、コルリ、マミジロ
水尻池	気高町	オオハクチョウ、マガモ
糸録池	鹿野町	オシドリ、バン
鷲峰山	鹿野町	ゴジュウカラ、キリシマミドリシジミ
打吹山（打吹公園を含む）	倉吉市	キビタキ、コサメビタキ、カラ類、ギフチョウ、 キノボリトタテグモ
広瀬川上流（広瀬）	倉吉市	オオサンショウウオ
石脇川水系	泊村	コガタノゲンゴロウ
三徳山	三朝町	ムササビ、ワシ・タカ類、キビタキ、ミドリシジミ類、 コウロマイマイ
三徳川（片柴から上流）	三朝町	オオサンショウウオ
片柴:片柴神社社叢	三朝町	クチベニマイマイとサンインマイマイの分布の接点
中津～竹田谷川上流域	三朝町	ミソサザイ、ヤマセミ、カジカガエル
小鹿～神倉～丹戸～中津山	三朝町	サシバ、オシドリ、クロツグミ
鉛山:鉛山神社	三朝町	クビレイトウムシオイガイ
鉛山～福吉谷～柿谷山地	三朝町	ワシ・タカ類、ミソサザイ、オオルリ
三朝温泉	三朝町	クビオビヤスデ
余川	三朝町	オオサンショウウオ
福本川・加谷川	三朝町	オオサンショウウオ
福山	三朝町	オオサンショウウオ、ヒメアカネ
滝川	関金町	オオサンショウウオ、ヒメアカネ
蒜山北面（清水川上流～小泉川上流）	関金町	オオサンショウウオ、キリシマミドリシジミ、オオナガザトウムシ
擬宝珠山～野添～小泉	関金町	オシドリ、ワシ・タカ類、ヤマセミ
金谷川	関金町	オオサンショウウオ
池谷川	関金町	オオサンショウウオ
加勢蛇川水系	東伯町	オオサンショウウオ、ヤツメウナギ
大山滝	東伯町	オオルリ、キリシマミドリシジミ、ギフチョウ、 ヒメコブヤハズカミキリ
地獄谷	東伯町	ヤマネ
船上山	赤碕町	オオルリ、ヨタカ、ギフチョウ、ウスバシロチョウ、ゴマシジミ
船上山～勝田ケ山～甲山～矢筈ケ山	赤碕町	ワシ・タカ類、アカショウビン、サンコウチョウ、ゴジュウカラ
弓ケ浜	米子市	コアジサシ、アカエリヒレアシシギ、オサムシモドキ、 イソコモリグモ
米子水鳥公園（彦名干拓地）	米子市	コハクチョウ、マガン、オジロワシ、ツクシガモ、 クロツラヘラサギなど 200 種以上の水鳥
上中谷	西伯町	ゴギ、タガメ、ムカシヤンマ
大山とその周辺（佐摩、飯戸、清水原、種原、桝水原など）	大山町、江府町、溝口町ほか	鳥類、昆虫類などの貴重種きわめて多数

備考１）「鳥取県のすぐれた自然　動物編」の重要生息地は次の基準により選定されている。
①環境庁の RDB（1991）で絶滅危惧種あるいは危急種とされている種又は個体群の主要な生息地
②中国地方あるいは鳥取県の固有種あるいは固有亜種で生息域の比較的狭い種の生息確認地
③特定の種（あるいは亜種）の日本における分布限界（北限・南限など）となっている集団の生息地
④特定の種の模式産地
⑤その他、中国地方での代表的な生息地として保全が特に望まれる地点
備考２）市町村名は、平成５年時点のものである。
出典）「鳥取県のすぐれた自然　動物編」（平成５年 11 月　鳥取県）

表 3－1.6(3)　鳥取県内の動物の重要生息地

名　　称	所在地	保全すべき動物の例示
印賀	日南町	ヒメシジミ、ムカシヤンマ、サンインマイマイ
印賀川	日南町	ゴギ、オオサンショウウオ（阿毘縁川）
船通山～上萩山	日南町	ゴジュウカラ、ヤマガラ、アオゲラ
道後山	日南町	ワシ・タカ類、ホシガラス、ヤマドリ、ゴジュウカラ
上坂～豊栄～猪子原山地	日南町	ワシ・タカ類、ヤマドリ、ヤマセミ、カワガラス
三国山	日南町	ワシ・タカ類、ヤマドリ、カワガラス
上石見:谷田峠	日南町	コブラシザトウムシ
餅が滝川	日南町	オオサンショウウオ
滝山公園	日野町	オオサンショウウオ、カジカガエル
鵜ノ池周辺	日野町	オシドリ、ミヤマホオジロ、ヒロオビミドリシジミ、クロシジミ
毛無山～宝仏山	江府町、日野町	ワシ・タカ類、ヤマドリ、コルリ
三平山	江府町	キマダラルリツバメ、ゴマシジミ、ヒメシジミ、クロシジミ
三平山～朝鍋鷲ヶ山～金ヶ谷山山地	江府町	ワシ・タカ類、アオゲラ、ヤマセミ
御机	江府町	ギフチョウ、オオムラサキ
鏡ヶ成	江府町	ワシ・タカ類、ブッポウソウ、ホオアカ、ウスイロヒョウモンモドキ
烏ヶ山	江府町、東伯町	ゴジュウカラ、メボソムシクイ
懸橋川	溝口町	オオサンショウウオ
谷川川	溝口町	オオサンショウウオ

備考１）「鳥取県のすぐれた自然　動物編」の重要生息地は次の基準により選定されている。

①環境庁の RDB（1991）で絶滅危惧種あるいは危急種とされている種又は個体群の主要な生息地

②中国地方あるいは鳥取県の固有種あるいは固有亜種で生息域の比較的狭い種の生息確認地

③特定の種（あるいは亜種）の日本における分布限界（北限・南限など）となっている集団の生息地

④特定の種の模式産地

⑤その他、中国地方での代表的な生息地として保全が特に望まれる地点

備考２）市町村名は、平成５年時点のものである。

出典）「鳥取県のすぐれた自然　動物編」（平成５年 11 月　鳥取県）

３．周辺地域での調査結果

対象事業実施区域の北約５kmの越路鳥取放牧場において、平成15年に行われた希少猛禽類の調査結果を表3－1.7、8に示す。また、越路鳥取放牧場と対象事業実施区域との位置関係及び調査地点は、図3－1.16に示すとおりである。

越路鳥取放牧場付近においては、11種の希少猛禽類が確認されており、このうち、ハチクマ、サシバ以外については、繁殖地として利用している可能性は低いと報告されている。

表 3－1.7　希少猛禽類月別確認回数

単位：回

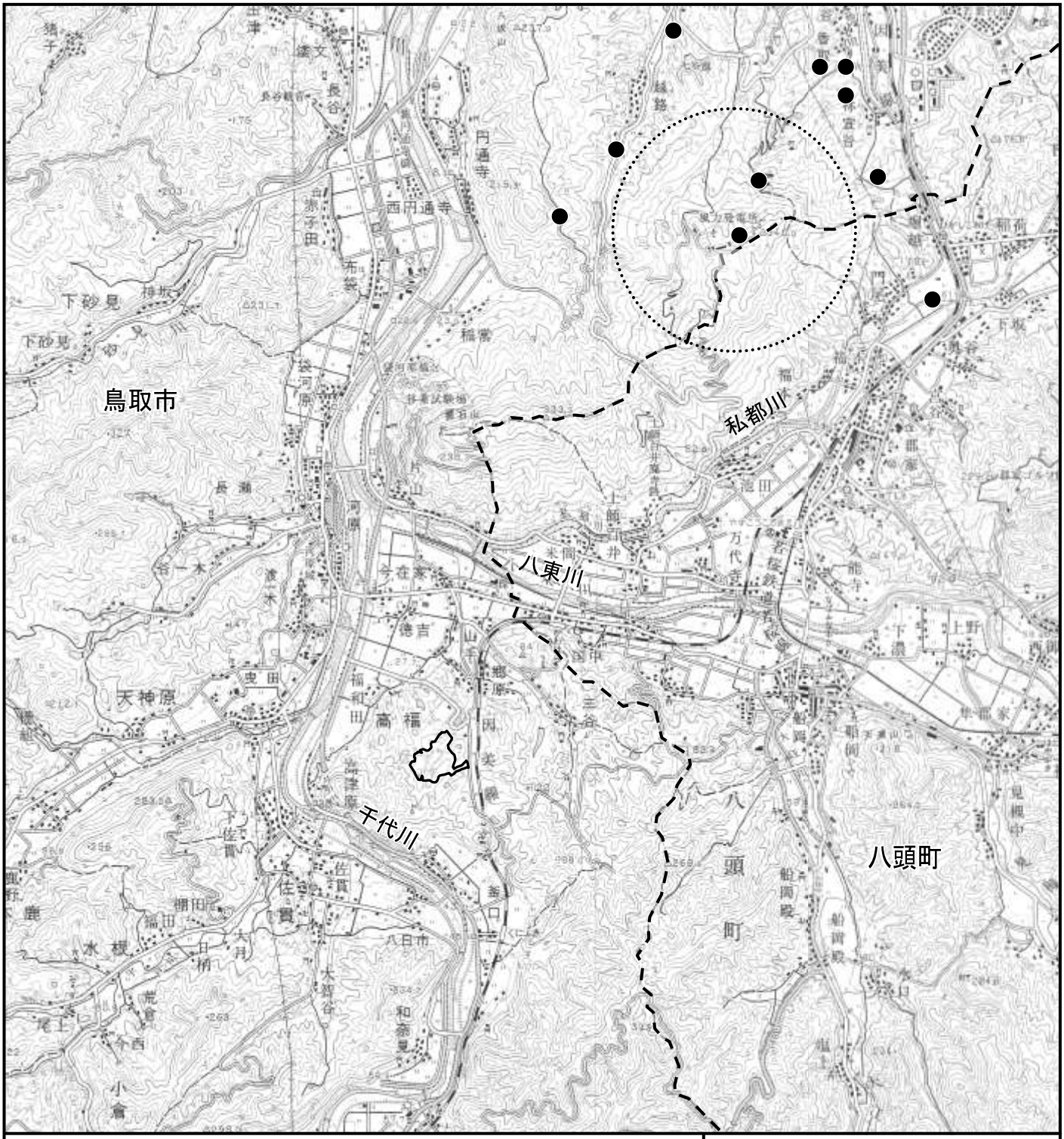
確認種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ミサゴ	0	0	1	0	1	0	0	1	0	3	0	0	6
ハチクマ	0	0	0	0	24	32	25	42	3	0	0	0	126
オオタカ	1	4	4	3	1	1	1	1	2	3	1	0	22
ツミ	0	0	3	3	0	1	0	1	0	14	0	1	23
ハイタカ	4	6	14	3	0	0	0	0	1	10	12	8	58
ノスリ	24	44	60	31	0	0	0	0	0	8	7	2	176
サシバ	0	0	0	1	27	19	4	11	6	2	0	0	70
クマタカ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
イヌワシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ハヤブサ	7	6	7	5	0	0	7	0	0	8	5	4	49
コチョウゲンボウ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3

出典）「鳥取放牧場生態系調査業務（その２）報告書」（平成 16 年１月　鳥取県企業局）

表 3－1.8　確認された行動

確認種	確認時の行動、繁殖活動等
ミサゴ	確認回数が少なく散発的に出現しているのみであり、繁殖に関わる行動は観察されていない。
ハチクマ	調査対象範囲等で最も高頻度で確認され七谷池付近で営巣している可能性あり。
オオタカ	調査対象範囲の北側で採餌行動やハンティングしている個体を確認。なお、周辺は本種の生息にとって好適な環境であるが、スイッチバックディスプレイや鳴き交わし等繁殖兆候は確認されていない。
ツミ	確認された個体は、時期的にみても移動中のものと思われる。また、繁殖期に確認されていないことから、調査対象範囲付近で繁殖している可能性は低い。
ハイタカ	春秋の移動時期と越冬季のみに確認されていること、繁殖期に確認されなかったこと、本種は比較的高標高部で繁殖する傾向があること等から、繁殖地として利用している可能性は低く、狩り場として利用しているものと思われる。
ノスリ	春秋の移動時期と越冬季のみに確認されていること、繁殖期に確認されなかったこと等から、繁殖地として利用している可能性は低く、狩り場として利用しているものと思われる。
サシバ	調査対象範囲北側の祢宜谷集落付近で巣材運搬や他個体に対する排斥行動等が確認されたことから、祢宜谷集落付近で繁殖を行っていた可能性が高い。ただし、調査範囲内での出現頻度は低くかったことから、狩り場としてあまり利用していなかったものと考えられる。
クマタカ	出現頻度は極めて低く、本種が調査範囲付近に定常的に生息している可能性は低い。
イヌワシ	出現頻度は極めて低く、調査範囲付近は定常的に生息できる環境ではないため、今後も極まれに通過個体が観察される程度と思われる。
ハヤブサ	移動時期と越冬季に主に確認されているが、繁殖に関わる行動は確認されていない。
コチョウゲンボウ	越冬期に郡家市街地付近の農耕地で確認。なお、調査範囲付近での繁殖の可能性は低い。

出典）「鳥取放牧場生態系調査業務（その２）報告書」（平成 16 年１月　鳥取県企業局）



凡　例

- 対象事業実施区域
- 市町界
- 基本となる調査対象範囲
- ● 猛禽類調査地点

出典）「鳥取放牧場生態系調査業務（その２）報告書」
（平成 16 年１月　鳥取県企業局）

この地図は、国土地理院発行の「５万分の１地形図（鳥取南部）（若桜）」を使用したものである。

N

１：５０，０００

0　500m　1km　2km

図 3－1.16　希少猛禽類の調査地点

3-1-6　生態系の状況

対象事業実施区域は、図3－1.17に示すように、鳥取市の南に位置する丘陵地帯であり、氷ノ山後山那岐山国定公園を含む中国山地から続く山や丘陵地の北端に位置している。対象事業実施区域の西側は、鳥取県のすぐれた自然に選定されている三滝渓から三朝東郷湖県立自然公園へとつながる山地であり、北側は、同様に選定されている霊石山となっている。

対象事業実施区域を中心とした近隣区域では、図3－1.18、19に示すように、尾根を中心に両側を水田耕作地に挟まれ、水田耕作地の上流にはため池が存在している等、小規模ながら水域、陸水域、陸域などが連続した多様な環境の基盤が存在している。

このように、対象事業実施区域とその周辺には陸域、水域及び陸水域の多様な環境の基盤を有する里地里山が存在し、それぞれの場所にはその環境に適した生物が生息していると考えられる。

したがって、対象事業実施区域周辺の樹林や水田及びため池等を生息地とする昆虫類、両生類及び魚類、これらを捕食していると思われる水鳥や陸生の鳥類、小型ほ乳類等が生息している可能性が考えられ、生産者である植物を一次消費者である昆虫等が食し、さらに高次消費者である魚類、鳥類、両生類、は虫類、ほ乳類がそれらを捕食し、動物の死骸やふん等は、菌やバクテリアなどに分解され植物の栄養素として再利用されているような生態系が形成されているものと考えられる。

凡　例

- ● 対象事業実施区域
- 国定公園
- 県立公園
- 県自然環境保全地域
- 中国自然歩道
- ▲ 霊石山

出典）「鳥取県自然公園、自然環境保全地域等配置図」（鳥取県ホームページ）に加筆

N

1：100，000

0　1　2 km　4 km

図 3－1.17　対象事業実施区域と周囲の環境

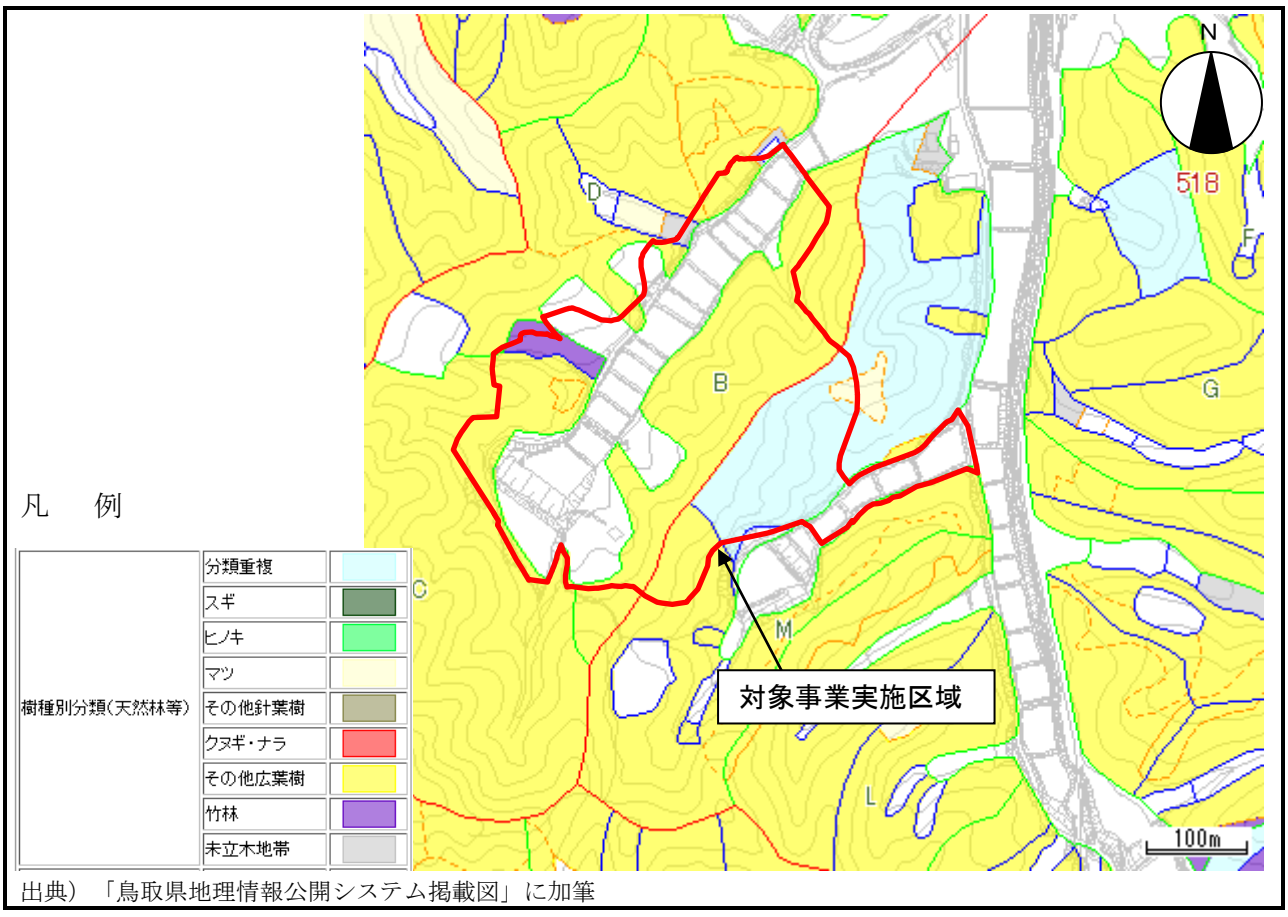


図 3－1.18　対象事業実施区域の状況（「3-1-4　植物の状況」より再掲）

図 3－1.19　対象事業実施区域の状況（「3-1-1　地形及び地質の状況」より再掲）